

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立循誘小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
| 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。 |

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 学習に関する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

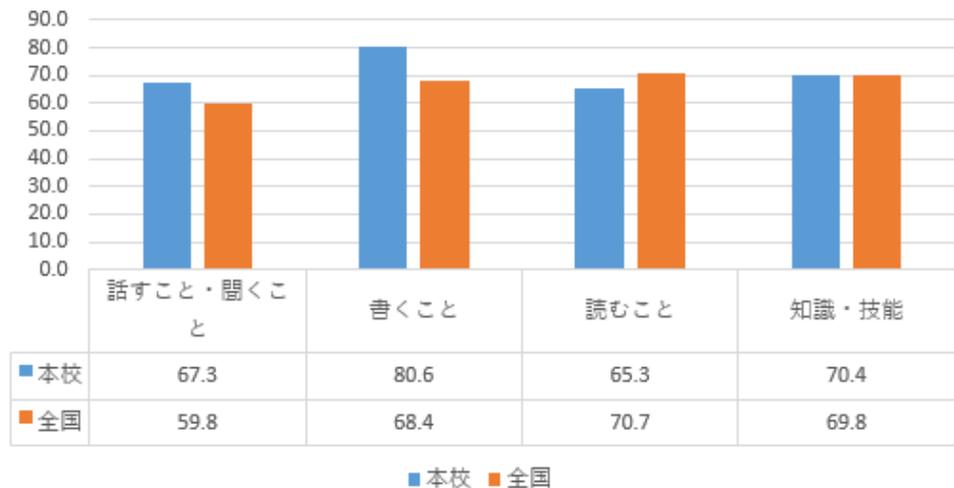
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

全国平均正答率との比較（小学校国語）



(1) 結果

今回の調査では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で「知識・技能」が 0.6 ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。「記述式」の問題形式にも成果が見られます。日ごろから様々な教科で書く学習を取り入れてきたことが結果につながりつつあると考えられます。児童の記述力を高めることが、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にあります。課題は、「知識・技能」の漢字を使って書き表す項目です。正答率38.8%で、全国平均正答率43.4%を下回っています。学習中、また日常生活の中で、学習した漢字を使いながら生活するよう意識させていく必要があります。子どもの実態を的確に見取り、授業改善を行いながらその意識を高め、力を身に付けさせていくことが重要であると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

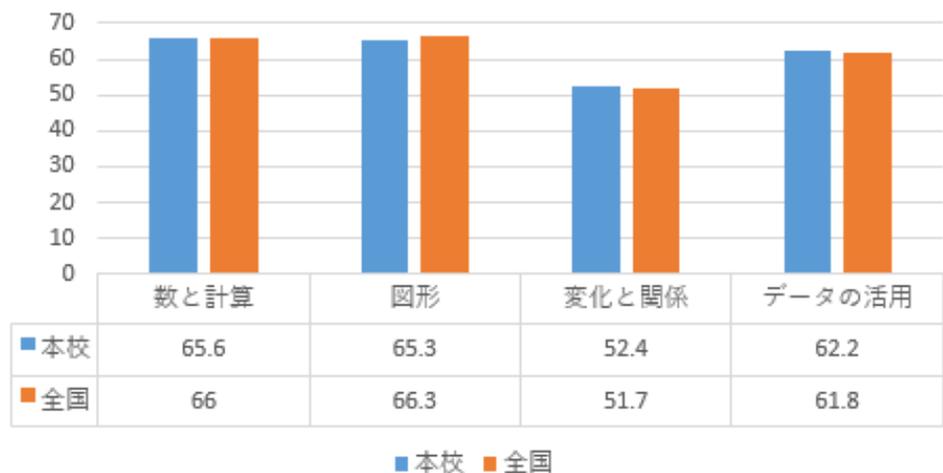
- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習を日頃から意識して取り入れます。
- 該当学年以外の漢字を復習する時間を作り、既習事項についての学力の確実な定着を図ります。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきたいと思います。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきたいと思います。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や書店に定期的に行くことも、お子様の読書習慣を付ける上でおすすめです。

2 算数

全国平均正答率との比較（小学校算数）



(1) 結果

今回の調査では、「図形」「変化と関係」の2領域で、全国平均を上回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「C 変化と関係」の領域の比例に関する問題の正答率が全国平均正答率を7.8ポイント上回っていました。また、「A 数と計算」の領域の、数量の関係を□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題の正答率も全国平均正答率を5.4ポイント上回っていました。「B 図形」領域の、直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかを見る問題では、全国平均を4.7ポイント下回り、「C 変化と関係」の、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかを見る問題では、全国平均を12.9ポイント下回りました。問題場面を正確に把握したり、式や言葉、図を使って自分の考えを説明したりする力を養うために、具体物操作や一人一台端末を活用した指導の充実を図ります。

さらに、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、説明する時間を設定したり、論理的に書く機会を増やしたりしながら、思考力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- ドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面において、算数で学んだことを使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数で学んだことを使えるものが意外とあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・規範意識・友達関係について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	73.5%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	38.8%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	49.0%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	55.1%	43.4%
携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	42.9%	39.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	81.6%	71.1%
友達関係に満足していますか。	75.5%	62.1%

朝食・起床・就寝の内、朝食については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

友達関係の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果となりました。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	8.2%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	10.2%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	20.4%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	30.6%	27.0%
「30分より少ない」	20.4%	16.2%
「全くしない」	10.2%	5.3%

家庭学習については、2時間以上学習している児童が約20%いる反面、学習時間が1時間未満の児童約60%いました。中には全く家庭学習をしていない児童もあり、個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても全学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示することにより定着しつつあります。今後は内容にもこだわりながら、自学が充実したものとなるよう指導を続けていきます。
- 朝読書の時間や図書委員会を中心に読書イベントを開催したり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習が定着することは、学力向上において極めて大切なことです。健康管理に気を配り、お子様が自らできたとき、少しでも向上したときに、認めてもらうことで学習意欲の高まりを期待できます。温かい見守りと声かけを意識してください。
- 「循誘小学校一目両善」をご覧になり、学習時間の目安や、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるよう励ましてください。